

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 9

年 次 報 告 書



## ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

### 御手洗 富士夫

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年11月1日に設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

2019年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」(第27回)の受賞者に米国のスチュアート・レオナルド・ピム デューク大学教授を選出いたしました。ピム教授は、地球上の生物の食物網の複雑さや種の絶滅速度等について、数理モデルを利用することにより理論的に明らかにし、地球規模の生物多様性に関する政策などに大きな影響を与えられた他、生物保全活動プログラムを実践する団体を支援する活動も実践され、生態系や生物多様性の保全に対して、科学と実践の両面において多大な功績を果たされました。

その他、助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、有意義な成果をあげることができましたが、年度末には新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一部事業を取り止めました。今、新型コロナウイルス感染拡大の影響は、私たちの生活に強く影響を及ぼしておりますが、早期終息を心よりお祈り申し上げます。

2020年度も、各事業を進め「自然と人間との共生」の理念の発展に向け、尽力して参る所存ですので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

本書は、2019年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸甚に存じます。

## 天皇陛下ご接見

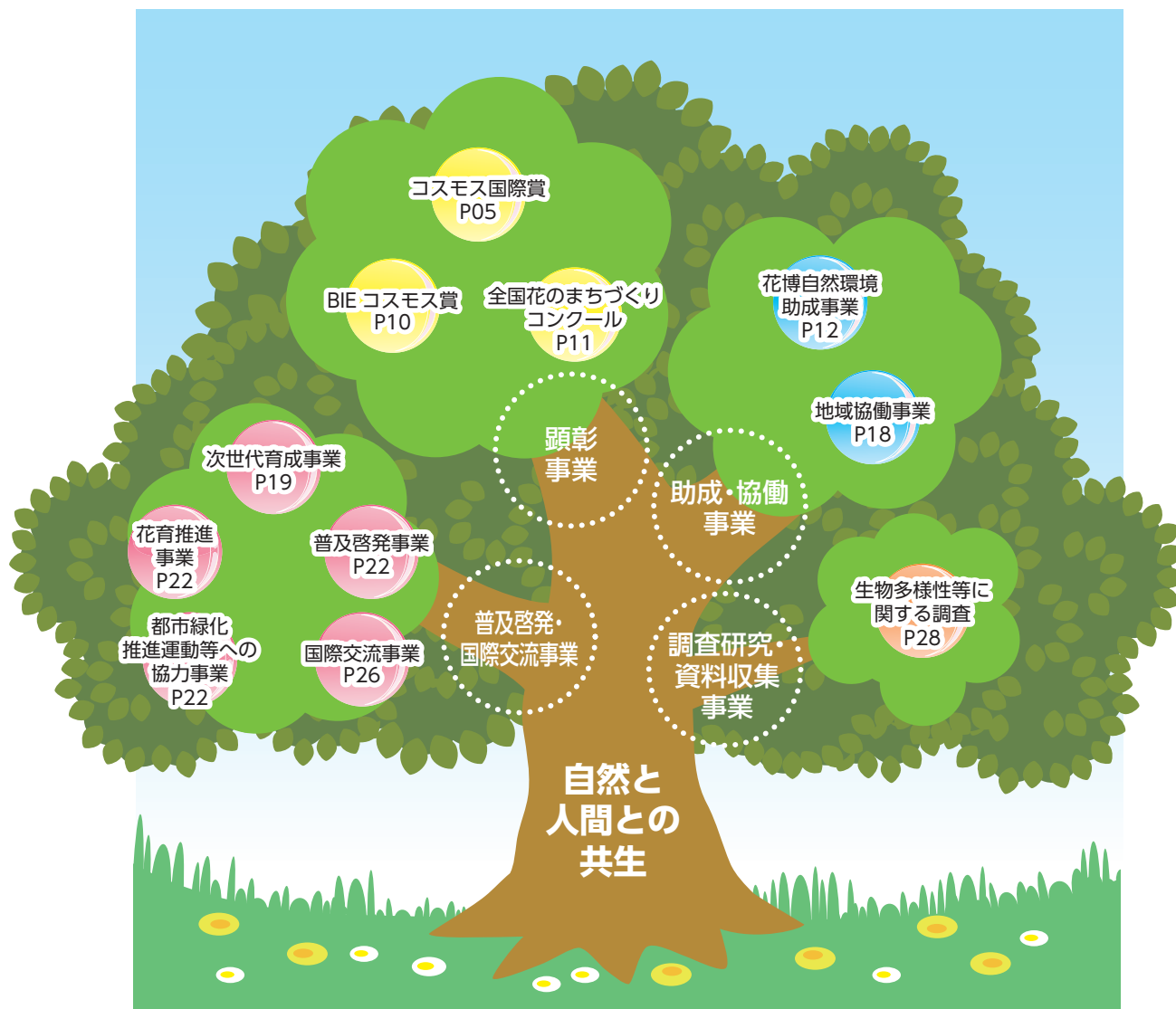


コスモス国際賞受賞者ピム教授ご夫妻は、天皇陛下とお会いになった。

(令和元年11月8日 赤坂御所にて)

## 事業概要

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



### 設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」という。)の2019年(第27回)受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施しました。

**受賞者の選考等** コスモス賞委員会(以下「賞委員会」という。)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」という。)を設置し、次の選考作業を行いました。

<2019年(第27回)受賞者の選考・決定等>

- ・ 第1回、第2回選考委員会(令和元年5月22日、5月30日)
- ・ 第3回選考委員会(令和元年7月1日)
- ・ 第2回賞委員会(令和元年7月1日)  
2019年受賞候補者にスチュアート・L・ピム デューク大学教授(保全生態学)が選定されました。
- ・ 第102回理事会(令和元年7月22日)  
賞委員会より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。  
また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表を実施しました。



2019年(第27回)コスモス国際賞受賞者  
スチュアート・L・ピム  
(デューク大学教授(保全生態学))

地球上の生物の食物網の複雑さや種の絶滅速度などについて、数理モデルを利用することにより理論的に明らかにし、地球規模の生物多様性に関する政策などに大きな影響を与えてきた。また、NGO「セービング・ネイチャー」を立ち上げ、生物保全活動プログラムを実践する団体を支援するなど、生態系や生物多様性の保全に対して、科学と実践の両面において多大な功績を果たしてきた。

<2020年(第28回)受賞者の選考等>

- ・ 第1回賞委員会(令和2年1月22日)

2019年  
(第27回)  
コスモス賞  
授賞式の開催

国内外からの賓客及び招待者約370名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。受賞者に賞状、賞金目録、メダルが贈呈され、映像による受賞者の紹介の後、受賞者による挨拶・講演が行われました。その後の祝賀演奏では、ヴァイオリン奏者である川久保賜紀氏及びコスモスアンサンブル2019によりピム教授リクエストのヴォーン=ウィリアムス作曲、「あげひばり」等が演奏されました。

授賞式

日 時: 令和元年11月7日(木)午後3時~5時

場 所: いずみホール(大阪市中央区)

出席者: 約370名

次 第: 主催者紹介 来賓紹介(2016年受賞者岩槻邦男博士、かれん・ケリー駐大阪・神戸米国総領事(駐日米国臨時代理大使代理)、阿部勲近畿農政局局長(農林水産大臣代理)、河田浩樹近畿地方整備局副局長(国土交通大臣代理)、田中清剛大阪府副知事(大阪府知事代理)、野村俊明大阪市建設局理事(大阪市長代理))

主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介

受賞者入場 賞状、賞金目録贈呈、メダル贈呈

祝辞(安倍晋三内閣総理大臣、ジョセフ・M・ヤング駐日米国臨時代理大使)

受賞者講演 祝賀演奏 閉会



顕彰事業

2019年  
コスモス国際賞  
受賞記念講演会

コスモス国際賞の関連行事として、2019年受賞者による講演会を開催しました。大阪・東京の両会場とも講演会終了後には、参加者との活発な質疑応答がありました。

	●大阪	●東京
日時	令和元年11月10日(日) 午後1時30分～午後3時30分	令和元年11月13日(水) 午後4時～6時
場所	大阪私学会館講堂 (大阪市都島区)	東京大学安田講堂 (東京都文京区)
次第	受賞者紹介 モンテ・カセム (コスモス国際賞選考専門委員会委員・大学院大学至善館学長) 2019年コスモス国際賞受賞記念講演 スチュアート・L・ピム 対談 スチュアート・L・ピム 宮下直 (東京大学大学院教授)	受賞者紹介 林良博 (コスモス国際賞選考専門委員会委員長・国立科学博物館長) 2019年コスモス国際賞受賞記念講演 スチュアート・L・ピム 質疑応答 林良博 スチュアート・L・ピム
参加者	約110名	約400名(うち高校生190名)
共催		東京都教育委員会
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、アメリカ合衆国大使館、日本生態学会	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、アメリカ合衆国大使館、日本生態学会



大阪

東京

## コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年  
ギリアン・フランス 卿  
Sir. Ghillean France



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年  
ジャック・フランソワ・バロー  
(物故)  
Dr. Jacques Francois Barrau



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年  
吉良龍夫  
(物故)  
Dr. Tatuio Kira



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年  
ジョージ・ビールズ・シャラー  
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年  
リチャード・ドーキンス  
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年  
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド  
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年  
呉 征鎰(ウー・チェン・イー)  
(物故)  
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年  
デービッド・アッテンボロー卿  
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のパイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年  
アン・ウィストン・スパーン  
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であると、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年  
チャールズ・ダーウィン研究所  
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

## 2019年度事業実績

2003年(第11回) 平成15年  
ピーター・ハミルトン・レーブン  
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長

米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年  
フーリャ・カラビアス・リジヨ  
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授

途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年  
ダニエル・ポーリー  
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授

漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年  
ラマン・スクマル  
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授

ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年  
ジョージナ・メアリー・メイス  
Dr. Georgina Mary Mace



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授

絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年  
ファン・ヴェン・ホン  
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授

戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009年(第17回) 平成21年  
グレッチェン・カーラ・デイリー  
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授

生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年  
エステラ・ベルグレ・レオポルド II  
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授

花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年  
海洋生物センサス科学推進委員会  
The Scientific Steering Committee of  
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年  
エドワード・オズボーン・ウィルソン  
Dr. Edward Osborne Wilson



米国・ハーバード大学名誉教授

アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。



2013年(第21回) 平成25年  
ロバート・トリート・ペイン  
(物故)  
Dr. Robert Treat Paine



米国・ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年  
フィリップ・デスコラ  
Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授

人類学者として、南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそこの自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年  
ヨハン・ロックストローム  
Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、プラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示した。

2016年(第24回) 平成28年  
岩槻 邦男  
Dr. Kunio Iwatsuki



日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

地球上に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

2017年(第25回) 平成29年  
ジェーン・グドール  
Dr. Jane Goodall



英国・ジェーン・グドール・インスティテュート創設者

野生チンパンジーの研究を長年続け、その全体像を明らかにするとともに、チンパンジーの住む森を保全するための植林活動や環境教育活動を行った他、世界の多くの国で実践されている環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」を創案した。

2018年(第26回) 平成30年  
オギュスタン・ベルク  
Dr. Augustin Berque



仏国・フランス国立社会科学高等研究院教授

和辻哲郎の著作「風土」から大きな影響を受け、風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mésologie)」と名づけられる新たな学問領域を切り拓き、自然にも主体性があるという「自然の主体性論」を提唱した。

## 委員会

コスモス国際賞委員会 平成31年4月現在(50音順)

委員長 尾池 和夫 京都造形芸術大学学長

副委員長 山極 壽一 京都大学総長

委員 秋道 智彌 山梨県立富士山世界遺産センター所長

委員 浅島 誠 帝京大学特任教授

委員 池内 了 総合研究大学院大学名誉教授

委員 磯貝 彰 奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

委員 武内 和彦 公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長

委員 中西 友子 星薬科大学学長

委員 西澤 直子 石川県立大学学長

委員 林 良博 独立行政法人国立科学博物館長

委員 鷺谷いづみ 中央大学理工学部教授

委員 和田英太郎 京都大学名誉教授

顧問 有馬 朗人 学校法人根津育英会武蔵学園学園長

顧問 中村 桂子 JT生命誌研究館館長

### 顕彰事業

#### 委員会

コスモス国際賞選考専門委員会 平成31年4月現在(50音順)

- 委員長 林 良博 独立行政法人国立科学博物館長
- 副委員長 中 静 透 総合地球環境学研究所特任教授
- 委員 池邊このみ 千葉大学大学院園芸学研究科教授
- 委員 池谷和信 国立民族学博物館教授
- 委員 モンテ・カセム 大学院大学至善館学長
- 委員 亀崎直樹 岡山理科大学生物地球学部教授
- 委員 ケビン・ショート 東京情報大学環境情報学科教授
- 委員 辻 篤子 名古屋大学国際機構国際連携企画センター特任教授
- 委員 野家啓一 東北大学名誉教授・総長特命教授
- 委員 村上哲明 首都大学東京大学院理学研究科教授

#### 2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）とその創設を合意した「BIEコスモス賞」を支援しています。令和元年度は、過去5回の効果検証を行い、今後のあり方について検討を進めるとともに、BIEと2020年ドバイ国際博覧会での実施に向けて調整を行いました。

なお、2020年ドバイ国際博覧会は新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、開幕について当初予定の今年10月から1年程度の延期を検討することで調整が進められていますので、その結果を受けて、「BIEコスモス賞」の授賞についても実施時期の変更が見込まれています。

### 3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画しました。

第29回  
(2019年)  
全国花の  
まちづくり  
コンクール

主 催 者：花のまちづくりコンクール推進協議会  
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)  
入賞/応募数：25点/1,543点  
表 彰 式：令和元年10月24日(木)、東海大学校友会館(東京都千代田区)

農林水産大臣賞



特定非営利活動法人渋川広域  
ものづくり協議会(群馬県渋川市)



富士市花の会(静岡県富士市)

文部科学大臣賞



長岡市立桂小学校(新潟県長岡市)

国土交通大臣賞



アドプト・ロード・万博北(大阪府茨木市)



サンセット一宮花仲間(兵庫県淡路市)

第25回  
全国花の  
まちづくり  
南砺大会

主 催：全国花のまちづくり南砺大会実行委員会、南砺市、花  
のまちづくりコンクール推進協議会  
開 催 日：令和元年7月6日(土)～7日(日)  
場 所：福野文化創造センターヘリオス(富山県南砺市)



助成・協働事業

1. 花博自然環境助成事業

本事業は、平成16年度より一般公募助成として開始したもので、これまで247件余の団体を支援してきました。令和元年度は、広報効果を上げるため、平成23年度より実施している復興支援活動を本事業に統合した他、応募の条件の緩和として、助成率の変更等を実施しました。  
助成対象は、従来同様、花の万博の基本理念の継承発展・普及啓発につながる調査や活動で、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的としています。

令和元年度  
助成事業

令和元年度は46件の事業に助成しました。

【調査研究】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
洞爺湖生物多様性保全協議会	洞爺湖ウチダザリガニ捕獲調査事業	北海道	平成19年より洞爺湖に生息するウチダザリガニを生態系保全のため酪農学園大学と連携して捕獲調査を行っている。継続した取組みにより、現在はザリガニの爆発的な増殖が抑制されている。また、広く外来種対策とするため啓発活動として、ザリガニの捕獲体験を通じた環境学習を実施している。
群馬野外生物学会	自然環境にかかる調査研究	群馬県	生態学、分類学等主として野外における生物学に興味を持つ者または自然環境の保全等に関心を持つ者の親睦をはかり、これらの研究の向上に寄与することを目的とした活動
NPO法人知的コミュニケーション研究機関連合	市原市における粘菌生息地の特定と生息条件	千葉県	土壌内有害物質の現行検査法では微生物に対する有害性を調べるほどの精度はない。粘菌フィザルムの変形体は微生物に影響する微量な金属イオンでも顕著な負の走性を示す。この特性を活用して粘菌生息地の物理化学的特性、共存する微生物との関連性を調べる。
神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	絶滅危惧トンボ類の保全手法の開発普及と現状把握調査	神奈川県	RD I・IIのトンボの保護・保全活動を地元の住民・環境団体・昆虫同好会・研究者・日本トンボ学会自然保護委員会と連携して行い、保全手法の開発・検証・普及を行っていく。また、RD種の分布調査を行い、結果を日本トンボ学会自然保護委員会に提供し保全情報として役立てていく。
NPO地域づくり工房	「冷風の丘」風穴植生調査と啓発資料の作成	長野県	本会が2011年より保全活動を行っている「冷風の丘」(長野県大町市、標高900m)の希少な高山性の地衣類をはじめとする風穴植生について継続的に調査する体制を整備する。また、調査に基づき、風穴植生の価値や保全に関する啓発資料等を作成し、関係学会等を通じて普及し、その発見と保全に向けた気づきを広める。
公益財団法人農業・環境・健康研究所	シバザクラ園地における生育障害の発生実態と防除対策	静岡県	近年、シバザクラを植栽した園地はその景観の美しさから、人々が多く集まる憩いの場となっている。しかし、いたるところで生育障害が発生し、景観の劣化が深刻化している。本事業は、シバザクラの生育障害の発生実態を調査し、防除対策について研究を行い、園地の景観向上を図る。
認定特定非営利活動法人森林の風	稀少蝶再生をめざす里山の土壌調査・改良、育苗・植樹	三重県	(1)日本で最初に、鈴鹿国定公園御在所岳で採取された稀少蝶キリシマミドリシジミの再生をめざして、食樹であるアカガシを育苗・植樹し、アカガシの森に育て上げる。(2)その為に、アカガシ植樹候補地の土壌調査により成長に適する候補地を選定し、より成長を促進するための土壌改良を実施する。
琵琶湖博物館はしかけグループ虫架け	滋賀県内の昆虫類の分布及び生態調査	滋賀県	滋賀県内各所において昆虫類の分布調査及び生態調査を実施し、県内に生息する子昆虫類の種類の概要を明らかにする。また、経年継続することにより、滋賀県内の昆虫類の多様性を標本やデータとして記録し、広く社会に発信する。
ごもくやさん	定点観測カメラによる野生保護動物の生態調査	兵庫県	これまで、三田市・中央公園に生息する野生動物の生態調査を行ってきたが、この範囲を、近隣の森から関西学院大学・三田キャンパスまでに広げる事で、より確度の高いデータを集積し、「生物多様性の保全」に役立てたい。将来、調査範囲を三田市全域に広げる事を目標にしている。
特定非営利活動法人樹木研究会こうべ	「都市アメニティ機能を高める公園樹木の保全」	兵庫県	近年、公園樹林が鬱蒼となることにより、防犯面での安全性の低下や樹木同士の競合による生育不良等の問題が顕在化し、木に対する負のイメージが生じている。そのため樹木医目線に立った「公園樹木保全対策指針」を作成することで、公園樹木の評価を高める。

NPO法人おおいた環境保全フォーラム

稀少種カワツルモを指標とし瀧湖・龍神池の再生事業

大分県

カワツルモを始めとする絶滅危惧種が数多く生息する瀧湖・龍神池は、近年環境の悪化が進行し保全対策が急務となっている。H29年度は地形や水質・底質などの調査の結果、池口（海とつながっている水路）の閉塞解消が必要であることが判明。H30年度は、池口付近の堆積土の一部除去。H31年度は池口のコンクリート堰の撤去を実施する。



洞爺湖生物多様性保全協議会



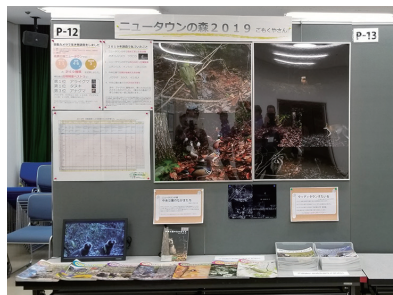
群馬野外生物学会



神奈川トンボ調査・保全ネットワーク



認定特定非営利活動法人森林の風



こもくやさん



特定非営利活動法人樹木研究会こうべ

助成・協働  
事業

## 【活動・行催事】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校	白神山地のブナの 森の動植物の探検 観察会	青森県	今年は、ブナの大豊作の予定です。落葉広葉樹の森はこのタイミングで食物連鎖が動きまわります。この自然界の動きをブナ林や、山・川・海の循環から学ぶ観察会を実施します。
特定非営利活動法人 はちろうプロジェクト	大潟村での外来生 物の駆除と在来生 物の保全活動	秋田県	本活動の目的は、大潟村村内で外来生物を駆除、在来生物や農地の保全を目指します。環境省のレッドデータブックに載っている生物がごく普通に生息する水域を取り戻します。農地はウシガエルやアメリカザリガニの巣穴が確認されない農地を取り戻します。
逢瀬さくらの里	続)新名所づくり 「出逢いのさくら 通り」事業	福島県	平成29年度の震災を忘れない！逢瀬さくら守り育成事業の継承とともに平成30年度の新たな新名所「出逢いのさくら通り」を継続し、桜の菜の花、秋の桜とコスモスのフラワーロードの整備と維持管理を行い、地域の観光振興に寄与するとともに、訪れる人の心の安らぎや潤い、そして出会いの場となる事を目的とする。
ミツバチサミット実行 委員会	ミツバチサミット 2019	茨城県	ミツバチをはじめとする多くの昆虫が植物の送花粉を担っている。しかし近年、これらの送粉昆虫の減少とそれによる農作物や野生植物への影響が懸念されている。そこで一般市民、専門家などが集まる複合型イベントの開催を通じて、この問題を広く発信するとともに、送粉昆虫の保全と活用に向けた今後の展開を議論する。
2019年度SPSD国際 会議実行委員会	空間計画と持続可 能な開発に関する 国際会議2019	千葉県	空間計画と持続可能な開発に関する国際会議2019は2年に一度開催している国際会議(International community of Spatial Planning and Sustainability Development (SPSD))
江南の藤保存会	緑と藤棚の自然環 境保全・保護プロ ジェクト	埼玉県	保存会は江南の藤(ノダナガフジ)を保存・継承しかつ地域に根ざしたコミュニティづくり・環境保全・保護の促進を行う事を目的とする。熊谷市地球温暖化防止活動推進員として熊谷青年会議所と提携して藤棚の下が外気と5度～6度涼しくクールシェアー先として6月～7月末まで一般開放しております。
公益社団法人園芸文化 協会	江戸の花プロジェ クト・園芸文化を 守ろうセミナー	東京都	江戸時代に花開いた日本の園芸文化や伝統植物について、幅広い層に広め、世界に誇る日本の文化として園芸文化を未来に継承することを目的に、平成29・30年度に続き、植物、造園、環境等の各団体や愛好会等と連携し、その代表格である「朝顔」を題材としたセミナーを合同開催する。
公益社団法人日本植物 園協会	東京五輪応援プロ ジェクト「大江戸 ハーブ物語」	東京都	2020年東京オリンピックを機に日本の植物園が中心になって世界に誇れる江戸の植物文化を世界に発信、未来につなぐことを目的として、「植物の力で真夏のオリンピックをのりきろう！」をテーマに、江戸時代のハーブに関するシンポジウムやスタンプラリーを実施、真夏の競技会で役立つハーブ情報を楽しく学ぶ。
霧ヶ峰草原再生協議会	霧ヶ峰高原におけ る草原再生モデル 事業	長野県	霧ヶ峰は全国有数の美しい草原景観を有しているが、近年は外来種の侵入やシカの食害等により草原の消失が懸念されている。そのため、ボランティアの協力により、外来種駆除や防鹿柵の設置等を実施することにより、霧ヶ峰の美しい草原景観の保全再生に取り組む。
特定非営利活動法人 地球温暖化対策地域協 議会エコネットあじ ょう	生き物共生社会づ くり	愛知県	安城市は、都市化が進み、農地や樹木が減少し、緑や生き物の自然が失われつつある。そこで、自然栽培を実践することにより、身近に自然的な国産品をしながら提案したい。
中生代植物研究会	絶滅危惧の中生代 古植物研究者の育 成アウトリーチ活 動	福井県	絶滅の危機にある日本の古植物学の研究者を育成するため、平成26・27年度の花博助成を使って制作された「日本産ジュラ紀の植物化石図鑑」を発展させて、次世代の子どもを対象としたシンポジウム、ワークショップの開催や簡単なパンフレット制作を行い、中生代植物化石の普及活動や古植物学研究のアウトリーチを行う。
特定非営利活動法人 京おとくに・街おこし ネットワーク	花と緑の街おこし 事業	京都府	京都の西南に位置する乙訓の地は長岡京の造宮、天下分け目の天王山の戦い等幾度も歴史の舞台に登場し素晴らしい文化遺産と緑豊かな自然を有しています。しかしながら西山の自然の良さはほとんどが知られず眠ったままでした。私達は10年前よりこの魅力を発信し花と緑の街作りに立ち上がっています。

カタツムリミュージアム「ラセン館」	カタツムリ博物館の開館と普及啓発活動(出張展示)	京都府	日本に800種類いると言われる日本産カタツムリを通して、自然環境や人との関わり、生き物の造形美術等を理解し、自然と人間との共生を考える契機とするため、博物館(私設)をオープンすると共に、小中高等学校や団体への出張展示を実施する。
一般社団法人フリンジシアターアソシエーション	地球を学ぶ!子ども環境劇場in京北2019	京都府	近畿圏内の子どもたちに募集をかけ、京都市右京区京北にて二泊三日の自然体験+演劇ワークショップ合宿を行う。花と緑を登場人物にする劇作りをプロの演劇人と自然体験と合わせて行うことで想像力を持って自然を見る目を養う。その後京都市下京区のKAIIKAにて劇を発表し、合宿の報告会・花の種を配布する。
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター	子どもの冒険遊び場プレーパークを支える人材育成事業	大阪府	たき火OK、穴掘りOK、木登りOK、自由度の高い遊び場プレーパークを作ることで、子どもたちの健全育成を目指す。一方、増え続ける公園に対して管理予算は減っていくと予想される。当該事業は、この2つを結び付け、未利用地を活用することでの保全を目指し、その2つの活動を支える市民の育成を行う。
特定非営利活動法人野生生物を調査研究する会	環境学習用副読本「生きている加古川」制作・配布事業	兵庫県	加古川流域の動植物やくらしを紹介する冊子「生きている加古川」を、小中学校の環境学習や総合的な学習の教材として制作し配布する。そのために、200ページ程度のカラー版として1000部の印刷・製本を行う。
やしろの森公園協会	さとやま 根っ子フェス2019	兵庫県	木育・森育を幅広く知って頂く機会、場を提供。近畿の関連団体で協働。イベント運営を通して交流し、情報交換の場を提供。繋がりを深める。木育・森育だけに留まらず、自然に根差した生活の知恵・技を里山自然での遊び、食、体験から学び、自然の恵みを味わい、楽しむことを目的にこのイベントを開催する。
認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター	四国の特定外来生物ソウシチョウの防除と現状の公開	高知県	四国の貴重な原生林の森林生態系に、特定外来生物のソウシチョウが定着することを防除し、生物多様性を保全すること、情報公開することにより他地域での同様の活動に資することを目的として本活動を実施する。活動は、卵とヒナの除去及び分布状況のモニタリングおよびホームページによる情報公開を実施する。



特定非営利活動法人はちろうプロジェクト



公益社団法人園芸文化協会



中世代植物研究会



カタツムリミュージアム「ラセン館」

助成・協働  
事業

【復興活動支援】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
浦浜・泊地区連絡協議会	浦浜・泊地区浸水地域の緑化事業	岩手県	平成30年度に国際花と緑の博覧会記念協会様の協力で植栽したど根性ポプラ広場他の花壇及び周辺に植栽した野芝の維持管理を行うと伴に、引き続き花卉類を植栽する。
特定非営利活動法人 Green Fields	つながる花と緑でおもてなし	岩手県	震災以来継続してきた花と緑の活動で地元に来たグループが被災地の新しく出来た街を人々が集い、緑あふれる美しい豊かな街として市民の手で復興するために、園芸教室や花植えを通じてコミュニティー再生のノウハウを学び、「つながる・花と緑の力」で被災者、行政、地元住民が協働する、集いの場と人材育成を促す。
ナチュラルギフト	花とみどりの元気ひろば	岩手県	花とみどりのワークショップで、心と身体の元気なまちづくり応援
特定非営利活動法人 パワーアップ支援室	花・陽だまり・心の和みプロジェクト(最終章)	岩手県	平成29年度は甲子町第2仮設団地に、平成30年度は内陸部の復興支援ハウスおらえに、被災者が自然や人と交流する公共的空間としての花壇を新設。平成31年度は、仮設住宅を離れた被災者が一堂に会する新たなコミュニティ空間を設置し、様々な地域で暮らす被災者同士をつなぐ三つのコミュニティ花壇を共創します。
特定非営利活動法人 しんせい	前向きで明るい福島を創造する花の環倶楽部	福島県	復興公営住宅等に住む社会的に弱い立場の方(介護予防が必要な高齢者・不登校・引きこもりがちな方、避難障がい者)が園芸活動を通して、地域(郡山市住民)と交流を深め、自らの力で孤立を軽減し、前向きで明るい福島をつくる活動。
特定非営利活動法人 勿来まちづくりサポートセンター	花と育む高校生と地域との交流支援事業	福島県	地元高校生と地域の商店会・振興会・女性の会の皆さんがプランターの寄せ植えや花壇の植え込み作業を通して触れ合い交流を深める事業。
はなあそび	福島に住む子供たちを対象にした花育活動	福島県	地域の幼稚園・保育園の子供達を対象に寄せ植えを制作。その後の管理の仕方を指導。また 募集型の寄せ植え教室を開催・対象は小学生以下を対象とし、親子参加で寄せ植えを制作。管理の仕方を指導する。
福興浜団	菜の花迷路一般開放に向けた菜の花畑整備	福島県	東日本大震災による津波で全て流された南相馬市原町区菅浜地区に、菜の花畑を造成し、そこに迷路を作り、GW期間中に一般開放する。菜の花迷路には親子連れからお年寄りまで、市内はもちろん県内外から多くの人に訪れてもらい、楽しみ、笑顔になってもらうとともに、津波被害を受けた地区の現状を見て、知ってもらう。
山森沢桃源の里管理運営委員会	里山公園駐車場並びに景観整備事業	福島県	自然環境の破壊を憂いてた仲間が、荒れ果てた山林を借り受けて始めた里山公園も、まもなく10年を迎えることになる。初期の計画通り事業も着々と進み、来年は駐車場拡大の整備に力点を置くと共に、景観の充実を図りたい。特に、昨年からはじめた水芭蕉等を整備し、全体の景観にアクセントをつけたい。
特定非営利活動法人 里山再生と食の安全を考える会	花とみどりの苗木の植栽と種蒔き	茨城県	景観保全のための花とみどりの環境整備。一角に野菜やハーブを栽培する。イベント等を企画し、植栽・収穫体験等を行う。
芝桜de花のまちづくりin浦安	芝桜de花のまちづくりin浦安	千葉県	東日本大震災で傷んだ浦安の街を、芝桜の美しい街にする活動です。2020年春までに1万株を増やす計画で既に8千株の実績です(PR花壇・コラボ花壇・芝桜教室)。AAネット浦安(会員100名)が活動や募金に協力しています。事業計画では将来の担い手の小中学生100名が参加するプランター栽培にも取り組みます。
特定非営利活動法人 九州バイオマスフォーラム	災害に強い森を作る・森を学ぶ薪づくりワークショップ	熊本県	熊本地震により、阿蘇地域の外輪山で地割れや小規模の地滑りが多数発生した。北海道地震においても、同様の被害が発生している。今後、地震によって脆弱になった森林に豪雨が重なるとさらなる被害が予想される。森林をワークショップ形式で整備することで、防災意識を高めるとともに、コミュニティづくりにも役立つ。
熊本市立龍田小学校 PTA	小・中学生による花いっぱい運動による地域交流活動	熊本県	小・中学生による花いっぱい運動を実施する。地域の小中学生が交流しながら音楽会の花壇や灯籠の整備を行うことで、地域の音楽会に参加・交流し、地域、学校、PTA間の絆を深める。
坪井川遊水地の会	坪井川遊水地桜並木プロジェクト	熊本県	坪井川遊水地一帯の河川管理上許される場所に桜の苗木を植え、地域住民組織の協働によって桜並木を育成、災害復旧の象徴となる人々の集う桜の名所を創出する事業である。



Noroshi西原	ガレキと一輪の花プロジェクト	熊本県	ガレキと一輪の花プロジェクトは被災者を笑顔にプロジェクトです。仮設住宅や震災で使えなくなった畑や耕作放棄地に花やヒマワリ迷路を作り笑顔になってもらう。同時に交流を生み出す。加えて、花を観光資源の1つにし、観光客に来てもらう。ひまわりは枯れた後、採集、加工、販売し、持続できる仕組みを作る。
肥後朝顔涼花会	肥後朝顔の栽培環境再整備と普及	熊本県	H28年熊本地震での被災により、現状では栽培の継続が困難となったり、栽培に必要な道具等を破損してしまった会員に対して、栽培環境の再整備を支援する。あわせて、今後もこの伝統園芸を継承していくための普及活動を行う。
弓削校区健康まちづくり委員会	まちあるき31～花と緑で元気になろう～	熊本県	老若男女、校区の地域公民館や公園を巡り、多くの語らい・ふれあいをしながら、植栽をする。参加賞のチューリップ球根は自宅等にも植える。18歳参加者には、成人を祝し、花と緑のギフト券を贈与し、故郷への思い出と旅立、自然愛護の精神などを願う。



特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター



熊本市立龍田小学校PTA



Noroshi西原



肥後朝顔涼花会

## 委員会

### 花博記念協会助成事業審査委員会委員 平成30年6月28日現在(50音順)

委員長 丸山 宏 名城大学農学部教授  
 副委員長 林 孝洋 近畿大学農学部教授  
 委員 佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授  
 委員 永田 萌 イラストレーター、絵本作家  
 委員 鷺谷いづみ 中央大学理工学部教授

副委員長 長村智司 一般社団法人フラワーンサイエティ会長  
 委員 久山 敦 一般社団法人大阪スポーツみどり財団咲くやこの花館館長  
 委員 須磨佳津江 キャスター、ジャーナリスト  
 委員 吉田昌弘 株式会社空間創研取締役会長

## 令和元年度 助成対象の決定

令和2年度の助成事業を決定しました。

【公募】 公募期間：令和元年8月1日(木)～9月13日(金)

【審査】 審査期間：令和元年10月～令和2年1月

【決定】 助成事業審査会の審査結果として、対象28件が理事長に答申され決定されました。また、この内容は第104回理事会にて報告しました。

助成・協働  
事業

2. 地域協働事業

歴史の道  
みどりの拠点  
づくり事業

歴史的に価値のある街道を人間の生活と自然の接点と捉え、緑あふれる魅力的な環境づくりを行うことにより「自然と人間との共生」という理念の継承発展につなげる本事業を、奈良県桜井市西之宮区にて1件実施しました。



花と緑の交流  
広場  
(自然と人間との  
共生フェスタ)

助成事業の成果の波及及び地域で活動する団体との交流を目的に、令和2年2月23日(日)、24日(月・祝)、和歌山県田辺市で地元団体である南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰会と共催で、自然と人間との共生フェスタin和歌山を開催する準備を進めましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止しました。  
なお和歌山での本事業は、令和2年度に開催する予定です。



普及啓発・  
国際交流事業

1. 次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、屋外での自然観察(フィールド型)教室、講師派遣型セミナーを行うとともに、毎日新聞大阪本社との共催による「校庭・園庭における生態園づくり」を実施しました。

コスモスセミナー  
自然観察教室  
～生まれ生きもの  
好きな子供たち  
2019～

博物館学芸員、学識者等を講師として招き、小学生を対象に2泊3日の自然観察教室、小学校への講師派遣セミナーを実施しました。

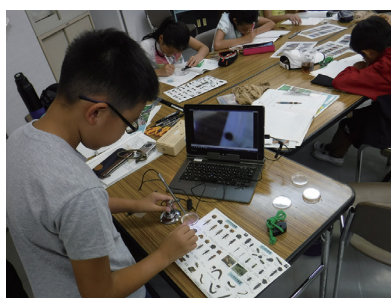
自然観察教室は本物の「いのち」に触れ、科学する視点を広げることを目的に実施するもので、令和元年度は24回目の開催となりました。日毎にテーマ、プログラムを変え、様々な視点から自然の神秘、大切さについて学びました。また、ほとんどが初対面の参加者同士がすぐに打ち解け、自然をとおして新たな友情が生まれ、かけがえのない3日間となりました。

開催日：令和元年8月17日(土)～19日(月)2泊3日  
場 所：兵庫県立奥猪名健康の郷(兵庫県川辺郡猪名川町)  
講 師：谷 幸三(一般社団法人淡水生物研究所理事)  
三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館主任研究員)  
稲本雄太(大阪市立自然史博物館友の会評議員)

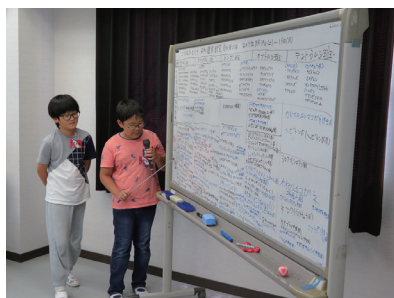
参加者：近畿圏の小学校4～6年生31名  
共 催：兵庫県立人と自然の博物館



1日目は川、2日目は森をフィールドに生き物の採集、観察を行いました。



電子顕微鏡、図鑑等を使って採集した生き物を同定  
昆虫の形態、サイズ、生息地等様々な情報から推理を重ねます。



班毎に採集した生き物を発表  
同定した種名を班毎にホワイトボードに書き出すと、  
びっしりと文字で埋まりました。  
3日間で150種の生きものが同定されました。



フィールドで観察した日本で一番小さなトンボ  
「ハッチョウトンボ」

## 普及啓発・国際交流事業

### 小学校講師派遣

コスモスセミナー小学校講師派遣は、協会に関係する多くの科学者や知識人を小学校に派遣し、自然との関わり、自然やいのちの大切さ、ひいては地球環境の大切さを学習し「自然と人間との共生」という花の万博の理念の継承発展に資することを目的としています。令和元年は計20校の小学校で授業を行いました。授業ではふだん聞くことのない楽しい話が展開されました。

#### 授業後アンケート(一部)

- ・児童にとってとても分かりやすく、また興味深い内容だったのでとてもよかったです。ハトを飼育しているということから、鳥のお話をしていただきました。こちらの要望に応じて下さりありがとうございます。ハトの餌に小石を置くことを教えていただき、早速石を探してきました。
- ・根、莖、葉が分かりやすく、植物の奥深さが分かりました。(木の年輪やトウモロコシの話など)子どもたちが興味を持って聞いていた。大人も子供も楽しめる良い授業でした。
- ・今日学習したことはよく覚えていました。普段と違う学習だと記憶にも残りやすいようです。「みどりを大切にしていきたい」「まちは昔と比べてすごく変わっているなんて知らなかった」と思いを自ら発表する様子がありました。
- ・食糧問題について、身近な食べ物から考えることで、日本における現状を実感できたと思います。
- ・迫力のある昆虫の写真は子どもたちがとても興味を示していました。3年生では学習できないことも知ることができ、よかったです。
- ・このような講師派遣事業は日ごろの授業では教えることのできない内容がたくさんあるので、学年に応じてまた応募したいと思います。子どもたちが体験できるものがあればなお良いと思います。ありがとうございました。
- ・子どもたちが意欲的にお話を聞き、昆虫のことから自分たちの命の大切さまで学ぶことができ、実りある1時間になりました。この度は本当にありがとうございました。

●実施日	●実施校および参加者	●テーマ	●講師
令和元年6月10日	柏原市立国分東小学校 3,4年生 28人	昆虫の生態・川的环境	谷幸三(一社)淡水生物研究所理事
6月11日	枚方市立殿山第二小学校 3年生 63人	植物のはたらき	渋谷俊夫(大阪府立大学 准教授)
6月24日	大阪市立神路小学校 3年生 67人	動物の命について	長瀬健二郎(元天王寺動物園園長)
6月25日	大阪市立田島小学校 3年生 32人	植物のはたらき	渋谷俊夫
6月26日	豊中市立豊島北小学校 4年生 108人	まちの景観・歴史	増田昇(大阪府立大学名誉教授)
7月3日	枚方市立西長尾小学校 4年生 102人	動物の命について	長瀬健二郎
7月8日	池田市立秦野小学校 3年生 107人	昆虫の生態・川的环境	谷幸三
7月17日	大阪市立加賀屋東小学校 4年生 74人	生き物と食べ物	佐藤洋一郎(京都府立大学文学部特別専任教授)
9月2日	アサンブション国際小学校 3年生 61人	昆虫の生態・川的环境	谷幸三
9月4日	大阪市立今津小学校 5年生 96人	生き物と食べ物	佐藤洋一郎
9月5日	松原市立恵我小学校 3年生 72人	植物のはたらき	渋谷俊夫
9月26日	堺市立浜寺東小学校 3年生 85人、保護者	昆虫の生態・川的环境	谷幸三
10月10日	豊中市立庄内西小学校 4年生 39人	動物の命について	長瀬健二郎
10月16日	八尾市立西山本小学校 5,6年生 88人	動物の命について	長瀬健二郎
10月23日	大阪市立大桐小学校 3年生 172人	植物のはたらき	渋谷俊夫
11月27日	堺市立光竜寺小学校 3年生 20人	カタツムリの不思議な世界	河野甲(カタツムリミュージアムラセン館代表)
12月18日	大阪市立長吉南小学校 6年生 63人	動物の命について	長瀬健二郎
令和2年1月17日	東大阪市立枚岡東小学校 4年生 88人	昆虫の生態・川的环境	谷幸三
1月29日	大阪市立豊里小学校 5年生 101人	昆虫の生態・川的环境	谷幸三
2月17日	大阪市立北箕小学校 6年生 52人	生き物と食べ物	佐藤洋一郎



校庭・園庭に  
おける  
生態園づくり

平成15（2003）年度から毎日新聞社と花博記念協会が共催して行っている、学校や園において生態園（生物を呼び込むための環境、学校ビオトープ）の整備を支援する事業です。観察や手入れを通じて、自然と生き物の関連性や「いのち」を理解する一助にもらう狙いがあります。2019年は3校・園の生態園に助成を行いました。また、前年に設置した校の生物観察の様子や日々の記録が毎日新聞紙面や毎日新聞ホームページにて紹介されました。

● 学校名	● テーマ	● 内容
守口市立さつき学園 (大阪府守口市)	地域の協力による自然を感じる バタフライガーデン	大阪府の義務教育学校(小中一貫)。地域住民と協働して校庭の廃材を除去・土壌改良を行い、植栽しバタフライガーデンとする。
大淀町立大淀希望ヶ丘小学校 (奈良県大淀町)	生きものつながる 希望っ子トンボ池	老朽化した池の整備を行う。吉野川の植物を移植し、地域の特色を活かした生態園とする。地域からゲストティーチャーを招いた授業の計画もしている。
富田林市立喜志幼稚園 (大阪府富田林市)	いろいろな生き物がいる 生態園(ビオトープ)をつくらう	小規模の池を園児、保護者とともに造成。池の造り方は園児たちの考えを尊重し、試行錯誤することで探求心、知的好奇心を高める。



守口市立さつき学園



大淀町立大淀希望ヶ丘小学校



富田林市立喜志幼稚園

鶴見緑地昆虫  
クエスト大作戦

幼稚園児等とその保護者を対象に、自然と触れ合う楽しさを体験する本事業を実施しました。

開催日：令和元年9月23日(月・祝)

場 所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)

講 師：中峰空(箕面公園昆虫館館長)

参加者：約300名(鶴見区および近郊の幼稚園・保育園に通う5歳児とその家族)

協 力：鶴見区子ども園ネットワーク、鶴見緑地スマイル5



## 普及啓発・国際交流事業

### 2. 花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施しました。



### 3. 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間(4月～6月)」での普及啓発活動、「都市緑化月間(10月)」期間中の10月21日(月)に東京都千代田区の日比谷公園で実施した都市緑化キャンペーン活動をはじめとする様々な活動を、都市緑化推進運動協力会に参画し、支援しました。

また、5月18日(土)に鳥取県立布施総合運動公園において開催された第30回全国「みどりの愛護」のつどい、10月25日(金)に東京都港区のニッショーホールで開催された「ひろげようそだてようみどりの都市」全国大会への協力を行いました。



出典：鳥取県ホームページ

### 4. 普及啓発事業

花の万博が開催された大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施しました。

#### 大阪都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画しました。

開催日：令和元年11月16日(土)～17日(日)

場所：日本万国博覧会記念公園東の広場(大阪府吹田市)

来場者：約85,300名

主催：当協会、大阪府、阪神造園建設業協同組合

主な内容：都市緑化関連PR

緑化啓発・普及＝軽トラガーデンコンテスト、花苗・種子の配布など  
ワークショップ＝苔テラリウムづくり、木の実でのリースづくりなど



はならんまん  
2019

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画しました。  
開催日：令和元年10月19日(土)～20日(日)  
場 所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)  
来場者：約33,000名  
主 催：当協会、大阪市  
内 容：市民花壇の作成及び展示  
鶴見緑地内花壇整備及び花卉による飾り付け  
花と緑の相談実施  
クラフト教室実施  
花と緑のまちづくり普及啓発



みどりの  
まちづくり賞  
(大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第9回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与しました。  
主 催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部  
募集期間：令和元年5月20日(月)から7月19日(金)  
入賞/応募数：11点/41点  
表彰式・講評会：  
日 時：令和元年11月1日(金)  
場 所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）・パフォーマンススペース(大阪市中央区)  
来場者：約100名



花の万博開幕  
30周年  
記念事業

1990年の国際花と緑の博覧会の30年目の節目として、令和2年春に当時の追想やこれまで当協会をはじめ各団体等が実施してきた理念継承事業の紹介を行う「メモリアル展示」及び、破棄されるチューリップの花びらで地上絵を描く「フラワーカーペット」の開催準備を進めましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大懸念により中止しました。

万博の桜  
2025

2020年は、1990年の国際花と緑の博覧会から30年の節目となり、2025年に開催される大阪・関西万博の5年前の年です。当協会は、この記念の年に万博への期待感や機運を高め、関西の緑化環境の向上をめざす、募金による2025本の桜の植樹事業の実行委員会に参画しました。1月29日には事務局として実行委員会を開催し、4月1日の募金スタートに向けて諸準備を開始しました。



## 2019年度事業実績

### 普及啓発・国際交流事業

#### 5. その他の普及啓発

**協賛・後援等** 花の万博の理念の普及・啓発のため、各種団体が実施する行催事等に協賛、後援等を行いました。また、各事業の広報等を実施しました。

#### 後援等一覧

● 催事名(開催時期)	● 開催場所	● 主催	● 名義等
2019年度大阪府花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」(R2.1.5～2.2)	大阪府立花の文化園イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・E-DESIGN共同企業体	後援 会長賞
第23回咲くやフォトコンテスト(R1.11.26～R2.1.19)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	一般財団法人大阪スポーツみどり財団	協賛 会長賞
「大阪ばら祭2019」(R1.5.10～5.12)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	関西ばら会・鶴見緑地スマイル5	後援 会長賞
第16回2019周防町通り「はなまつり」(R1.5.1～5.31)	周防町通り(堺筋～御堂筋間)と大阪市立南小学校(大阪府中央区)	ヨーロッパ村周防町通り商店会	後援
水都おおさか森林の市2019(R1.10.27)	近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園周辺(大阪府北区)	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援
第74回日本おもと名品展(R1.11.30～12.1)	上野グリーンクラブ(東京都台東区)	公益社団法人日本おもと協会	後援 会長賞
「遊び場の安全を考える国際シンポジウム」(R1.10.8)	東京ドームホテル(東京都文京区)	一般社団法人日本公園施設業協会	協賛
令和元年度「都市緑化月間」(R1.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
みどりのイノベーション推進プロジェクト発足記念～Green Hospitality OSAKA国際シンポジウム～(R1.11.6)	大阪商工会議所(大阪府中央区)	みどりのイノベーション推進会議(一社)テラプロジェクト	後援
2025大阪・関西万博ランドスケープデザインコンペ(R1.9.27～R2.2)	(株)公園マネジメント研究所(大阪府中央区)	一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会	後援
軽トラガーデンコンテスト(R1.11.16)	万博記念公園(大阪府吹田市)	阪神造園建設業協同組合・(一社)日本造園組合連合会大阪支部	会長賞



大阪府立花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」



水都おおさか森林の市2019



第74回日本おもと名品展

#### ホームページ等の運営・管理

SNSの活用や動画サイトにコスモス国際賞の受賞者の動画を公開するなど、情報発信を行いました。



#### コスモス国際賞の広報

最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付しました。  
また、2019年(第27回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書を作成(1,600部)し、国内外の関係者に配付しました。





情報誌の刊行

協会の事業情報や「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌を『KOSMOS』(変形A5判24頁2,000部)の6号を発刊しました。  
 なお、7号は新型コロナウイルス感染症の影響により、発刊を延期しました。



情報の提供

今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体等	11件
企業・個人	7件

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配布等しました。



普及啓発・  
国際交流事業

6. 国際交流事業

海外における青少年交流事業の実施や国際園芸博覧会への出展準備を行いました。

高校生のための  
生き物調査体験  
ツアー in台湾

次世代を担う高校生が台湾を訪問し、専門家の指導のもと、自然科学分野の視野を広げると共に、現地の高校生との交流により、国際的な感覚を育成する生き物調査体験ツアーを実施しました。

開催日：令和元年8月2日(金)～8日(木)6泊7日

場 所：台北市立動物園(台北市)および東眼山自然教育センター(桃園市)

参加者：日本人高校生20名、台湾人高校生20名 計40名

企画主体：当協会、兵庫県立人と自然の博物館、台北市立動物園

旅行手配：(株)JTB

「第4回 高校生のための生き物調査体験ツアー in台湾」日程詳細

	● 月日(曜)	● プログラム義等
1 目 目	8/2 (金)	■ 出国 ■ 日台高校生 対面 ■ 動物園遊歩道での野生生物観察 (台北市立動物園 泊)
2 目 目	8/3 (土)	■ 鳥類観察 ■ 高地での生き物調査 (東眼山自然教育センター 泊)
3 目 目	8/4 (日)	■ 高地での生き物調査 ■ 植物標本作製 ■ 夜間観察(ライトトラップなど) (東眼山自然教育センター 泊)
4 目 目	8/5 (月)	■ 台北市内 各所(博物館、夜市等)見学 (ハイワンホリデイホテル 泊)
5 目 目	8/6 (火)	■ 熱帯生物展示館の観覧 ■ キノボリトカゲの食性調査など ■ コウモリトラップ設置 (ハイワンホリデイホテル 泊)
6 目 目	8/7 (水)	■ コウモリトラップ確認、講義 ■ ポスター制作 ■ 日台高校生 お別れ (ハイワンホリデイホテル 泊)
7 目 目	8/8 (木)	■ 帰国



北京国際  
園芸博

中国・北京で2019年4月29日から同年10月7日の会期で開催された北京国際園芸博覧会(テーマ:緑の生活・より良い生活)の日本国出展に関し、日本国政府の一員として、日本庭園並びに日本展示館の出展に参画し、庭屋一如のコンセプトのもと、伝統と新しい技術が融合した日本の園芸文化を広く発信しました。AIPH(国際園芸家協会)主催の屋外出展コンテストでは、国際庭園部門において、大賞を受賞しました。また、人と自然の調和を根底におく日中共通の園芸文化のあり方や、「緑」や園芸文化が社会に果たす役割をについて議論するため、中国と日本の専門家による国際シンポジウムを開催しました。



2019  
北京園芸博覧会  
開催記念  
シンポジウム

日 時: 令和元年9月14日(土)午後1時~5時

場 所: 清華大学建築学院ホール

参加者: 約200名

次 第: 開会挨拶 朱 穎心(清華大学建築学院副院長・教授)

基調講演1 涌井雅之(東京都市大学環境学部特別教授)

「自然と寄り添いながら暮らすー日本の風土から考える」

基調講演2 李 樹華(清華大学教授)

「中国と日本の両国における盆栽の芸術性に関する比較研究」

パネルディスカッション

コーディネーター 森本幸裕(京都大学名誉教授)

パネリスト 涌井雅之(東京都市大学環境学部特別教授)

李 樹華(清華大学教授)

田中孝幸(東海大学農学部名誉教授)

加藤友規(京都造形芸術大学教授)

劉 志成(北京林業大学教授)

李 洪遠(南開大学教授)



普及啓発・  
国際交流事業

国際シンポジウム  
「自然は考えるのか？」  
の開催

開催趣旨：

2018年10月21日(日)に京都大学で開催した「2018年コスモス国際賞受賞記念・KYOTO地球環境の殿堂10周年記念講演会・シンポジウム「対話：日本列島の自然観」」の成果をふまえて、その趣旨を引き継いで、2018年コスモス国際賞受賞者オギュスタン・ベルク博士、コスモス国際賞委員会副委員長・京都大学総長の山極壽一博士、総合地球環境学研究所の安成哲三所長などが参加して、「自然の主体性」などについて議論を行い、自然と人間との共生について認識を深め、参加者等にその成果を広めることを目的として開催しました。

開催日及び会場：

令和元年6月6日(木)：ユネスコ(UNESCO)パリ本部

〃 7日(金)： 〃

〃 8日(土)：パリ日本文化会館(Maison de la Culture du Japon à Paris)

主催：

フランス側

社会科学高等研究院(École des Hautes Études en Sciences Sociales, EHESS)

パリ国立高等鉱業学校(École Nationale Supérieure des Mines de Paris)

ユネスコ(UNESCO)

パリ日本文化会館(Maison de la Culture du Japon à Paris)

日本側

当協会(Expo '90 Foundation)

総合地球環境学研究所(Research Institute for Humanity and Nature)

京都大学(Kyoto University)

参加者数：約100名

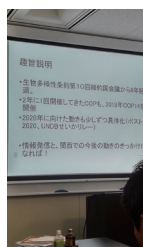
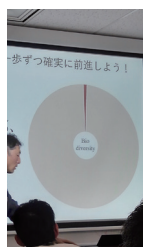


調査研究・  
資料収集  
事業

生物多様性等に関する調査

生物多様性協働  
フォーラムなど

生物多様性協働フォーラムに関して、具体的な活動方針などについて関係先との連絡調整を行った他、SDGsに係る企業等の活動状況を調査しました。



## 組織運営

### 理事会 令和元年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第100回理事会	令和元年 6月11日(火)	経団連会館カンファレンス (東京都千代田区)	平成30年度事業報告並びに収支決算について 特定資産の取崩しについて 定時評議員会の招集について 評議員会に提出する評議員候補者名簿(案)について 評議員会に提出する理事候補者名簿(案)について
第101回理事会 (決議の省略)	令和元年 6月27日(木)	—	会長(代表理事)、理事長(代表理事)、専務理事(業務執行理事)の選定について
第102回理事会	令和元年 7月22日(月)	ステーションカンファレンス東京 (東京都千代田区)	2019年(第27回)コスモス国際賞受賞者の決定について 顧問の選任について
第103回理事会 (決議の省略)	令和元年 12月9日(月)	—	特定資産の取崩しについて
第104回理事会 (決議の省略)	令和2年 3月25日(水)	—	令和2年度資産運用方針書について 令和2年度事業計画及び収支予算について 特定資産について 特定寄附金の募集に係る募金目論見書について 助成事業審査委員会委員の選任について 組織及び職制規程の改定について

### 評議員会 令和元年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第54回評議員会	令和元年 6月27日(木)	阪急グランドビル (大阪市北区)	平成30年度事業報告及び収支決算書類の承認について 特定資産の取崩しについて 評議員の選任について 理事の選任について
第55回評議員会 (決議の省略)	令和元年 12月27日(金)	—	特定資産の取崩しについて
評議員懇談会	令和2年 2月12日(水)	阪急グランドビル (大阪市北区)	令和元年度事業概要及び今後の展開について 令和元年度収支見込及び今後の見通しについて

## 令和元年度決算

貸借対照表 令和2年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
<b>I 資産の部</b>		<b>II 負債の部</b>	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	99,339,602	未払金	11,198,452
未収金	230,990	預り金	565,411
未収収益	54,620,895	賞与引当金	3,265,932
流動資産合計	154,191,487	流動負債合計	15,029,795
2.固定資産		2.固定負債	
(1)基本財産		退職給付引当金	47,542,700
基本財産定期預金	860,344,700	固定負債合計	47,542,700
基本財産投資有価証券	29,655,300	負債合計	62,572,495
基本財産合計	890,000,000		
(2)特定資産		<b>III 正味財産の部</b>	
記念基金	9,469,708,582	1.指定正味財産	
退職給付引当資産	47,542,700	寄付金	10,000,000,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	6,000,000	基本財産運用益	90,000,000
特定資産合計	9,523,251,282	特定資産運用益	800,000,000
(3)その他固定資産		特定資産評価差額金等	△530,291,418
投資有価証券	2,979,898	指定正味財産合計	10,359,708,582
什器備品	8	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
その他固定資産合計	2,979,906	(うち特定資産への充当額)	(9,469,708,582)
固定資産合計	10,416,231,188	2.一般正味財産	148,141,598
資産合計	10,570,422,675	(うち基本財産への充当額)	(0)
		(うち特定資産への充当額)	(6,000,000)
		正味財産合計	10,507,850,180
		負債及び正味財産合計	10,570,422,675

# 組織運営

正味財産増減計算書 平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

単位:円

科目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	3,367,111
基本財産受取利息	3,367,111
特定資産運用益	203,220,554
記念基金受取利息	199,494,273
特定資産受取利息	22,281
記念基金投資有価証券売却益	1,554,000
記念基金投資有価証券償還益	2,150,000
受取寄付金	4,000,000
受取寄付金	4,000,000
経常収益計	210,587,665
(2) 経常費用	
事業費	172,974,348
役員報酬	8,242,500
給与手当	34,670,356
法定福利費	5,996,594
退職給付費用	1,618,708
賃金	108,465
職員厚生費	121,801
会議費	1,642,620
旅費交通費	5,505,499
通信運搬費	2,291,737
消耗什器備品費	18,854
消耗品費	1,379,249
印刷製本費	1,496,700
光熱水料費	2,382,605
役務費	37,408
委託費	27,520,480
賃借料	4,462,980
使用料	2,147,044
保険料	213,472
諸謝金	5,707,030
租税公課	18,536
支払負担金・会費	13,123,899
支払助成金	13,735,404
支払手数料	362,075
顕彰賞金	40,000,000
雑費	170,332
管理費	66,905,706
役員報酬	3,532,500
給与手当	31,559,471
法定福利費	5,982,506
退職給付費用	1,494,192
賃金	46,485
職員厚生費	112,432
会議費	703,980

科目	当年度
旅費交通費	2,359,499
通信運搬費	982,173
消耗什器備品費	8,081
消耗品費	591,108
印刷製本費	641,444
光熱水料費	1,021,116
役務費	16,032
委託費	11,794,492
賃借料	1,912,706
使用料	920,163
保険料	91,488
諸謝金	2,445,870
租税公課	7,944
支払負担金・会費	453,850
支払手数料	155,176
雑費	72,998
経常費用計	239,880,054
当期経常増減額	△29,292,389
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△29,292,389
一般正味財産期首残高	177,433,987
一般正味財産期末残高	148,141,598
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	4,000,000
受取寄付金	4,000,000
基本財産運用益	3,367,111
基本財産受取利息	3,367,111
特定資産運用益	241,526,035
記念基金受取利息	200,737,035
記念基金投資有価証券売却益	1,554,000
記念基金投資有価証券償還益	39,235,000
特定資産評価損益等	△515,463,018
記念基金投資有価証券評価損益等	△515,463,018
一般正味財産への振替	△211,808,146
一般正味財産への振替	△211,808,146
当期指定正味財産増減額	△478,378,018
指定正味財産期首残高	10,838,086,600
指定正味財産期末残高	10,359,708,582
III 正味財産期末残高	10,507,850,180

## 財団の概要(令和2年4月1日現在)

名称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

### 評議員 令和2年4月1日現在(50音順)

評議員	青木保之	(学)東洋女子学園理事
評議員	尾崎裕	大阪商工会議所会頭
評議員	有吉伸人	(特)日本放送協会大阪拠点放送局長
評議員	金田章裕	(大)京都大学名誉教授
評議員	佐藤友美子	(学)追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	高橋徹	大阪府副市長
評議員	田中清剛	大阪府副知事
評議員	土井元章	(大)京都大学大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一	(公社)日本家庭園芸普及協会顧問
評議員	畑中孝晴	(一財)日本花普及センター評議員
評議員	正木啓子	(公社)日本都市計画学会関西支部顧問
評議員	増田昇	(大)大阪府立大学名誉教授
評議員	松下正幸	(公財)松下幸之助記念志財団理事長

### 役員 令和2年4月1日現在(50音順)

会長	御手洗富士夫	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫	阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役会長グループCEO
専務理事	田中充	常勤
理事	今西英雄	(大)大阪府立大学名誉教授
理事	本間和枝	(公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	(大)京都大学名誉教授
理事	和田新也	(一社)日本造園建設業協会会長
監事	北山諒一	公認会計士
監事	堀井良殷	(公財)関西・大阪21世紀協会理事長

### 顧問 令和2年4月1日現在(50音順)

顧問	今井敬	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
顧問	中川和雄	大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹	アイング(株)最高顧問
顧問	三井康壽	(一財)住宅生産振興財団会長

### 参与 令和2年4月1日現在(50音順)

参与	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
参与	中村桂子	JT生命誌研究館館長
参与	波多野敬雄	(学)学習院名誉院長
参与	松本洋	(一財)日本国際協力システム顧問
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

### 協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

#### 〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)  
〈管理運営、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)  
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、広報、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

## 顕彰事業

### 1. 2020年(第28回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2020年(第28回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

令和2年度は、2020年の受賞者選考及び決定に加え、2021年の選考準備を行います。2020年の受賞者は7月下旬に決定し、11月に授賞式を開催します。

### 2. BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、「2020年ドバイ国際博覧会」での授賞に向け、BIE、ドバイ万博事務局と連絡調整等を進めます。

### 3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」について、推進協議会に参画し、実施します。

## 助成・協働事業

### 1. 花博自然環境助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」、「活動・行催事」、被災地における「復興活動支援」のため、全国公募による助成事業を実施します。

### 2. 地域協働事業

助成事業成果発表会と市民活動団体等の交流を目的とした「花と緑の交流広場」(呼称「自然と人間との共生フェスタ」)については、新型コロナウイルス感染症のため実施を取りやめた令和元年度予定事業を和歌山で実施するとともに、今後は2年計画の事業に見直す。

## 普及啓発事業及び国際交流事業

### 1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」、山野で生き物を調査・観察する「自然観察教室」、毎日新聞社との共催による「校庭・園庭における生態園づくり」、幼稚園・保育園児を対象とした「昆虫クイズ大作戦」を引き続き実施するとともに、2021年度の公募の準備を行います。

### 2. 花育推進事業

花や緑を児童教育等の中に取り入れることを目的とした「花育活動」の推進のため、花育推進セミナー・交流会、花育ワークショップの開催等を支援します。

### 3. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

### 4. 普及啓発事業

花の万博開催地の大阪で催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力する他、みどりの美しい景観となっている建物や緑化活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画し、実施します。

また、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を高校生や一般を対象に開催します。

情報発信については、花の万博資料や記念協会の蓄積情報をアーカイブとして展開する他、情報誌『KOSMOS』の発刊やソーシャルメディアを引き続き活用し、情報発信に努めます。

### 5. 国際交流事業

高校生を海外の自然に触れさせ現地の高校生との交流を図る海外青少年交流事業「高校生のための生き物調査体験ツアー in台湾」を継続実施するとともに、2021年度の公募の準備を行います。

## 調査研究・資料収集事業

### 生物多様性等に関する調査

関西の企業や博物館、市民団体による「生物多様性協働フォーラム」に参画し、各情報の収集等を実施する他、協会の各事業を企業、団体と連携し実施することを目的に、SDGsやメセナに対する企業等の取組を引き続き調査します。







公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<https://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真：「カトレア・ラビアータ」

2019年(第27回)コスモス国際賞受賞者スチュアート・L・ビム デューク大学教授の研究フィールドであるブラジルを原産地とするランの原種の一つです。写真は、授賞式用のコサージュ、ブートニアとしてこの花をモチーフとしてオリジナルに作製したものです。

